

別記第1号様式(第7関係)

会 議 録

附属機関又は 会議体の名称		旧第十中学校跡地活用等基本計画検討委員会
事務局（担当課）		政策経営部企画課
開催日時		平成30年3月22日（木）18時00分～19時00分
開催場所		本庁舎8階 807・808会議室
議 題		・第5回検討委員会の会議録について ・基本計画（案）について ・今後のスケジュールについて
公開の 可否	会 議	☒ 公開 ☐ 非公開 ☐ 一部非公開 傍聴人数6人
		非公開・一部非公開の場合は、その理由
	会 議 録	☒ 公開 ☐ 非公開 ☐ 一部非公開
		非公開・一部非公開の場合は、その理由
出席者	委 員	堤洋樹会長、湯浅かさね副会長、本山美子委員、市川幸雄委員、服部浩久委員、小林幸栄委員、佐藤成世委員、木村龍志郎委員、大沼裕一委員、杉浦浩委員、多良美紀委員、鹿妻英子委員、城山佳胤委員、小澤弘一委員
	そ の 他	施設計画担当課長、学習・スポーツ課長 学習・スポーツ課職員
	事 務 局	企画課 施設計画グループ 株式会社三菱総合研究所（委託事業者）

1. 開会

＜堤会長より開会の挨拶＞

2. 議事

（１）第５回検討委員会の会議録について

＜事務局より資料１に基づき第５回検討委員会の会議録等について説明＞

（委員一同）

特に意見なし。

（２）基本計画（案）について

＜事務局より資料２－１、資料２－２に基づき基本計画案について説明＞

（Ａ委員）

本施設は、３２ページの基本方針の中で「b 多様な主体が利用可能な施設」が取り上げられている。そこで、３２ページ冒頭の「幅広く区民が」という区民に限定される表現ではなく、「区民をはじめ」などの表現に修正したほうがよい。

（Ｌ委員）

４０～４３ページの事業手法の評価のところで、VFM の考え方を整理したほうがよい。

（会長）

今後基本計画に沿って事業を具体的に進めていく上で、住民との接点になる場として、ヒアリングやワークショップの開催等、具体的な想定はあるか。基本的には、区が主導して進めていくのか。

（事務局）

現時点では、ワークショップなどの開催は考えていないが、そういう要望が寄せられた場合は検討していきたい。今回の基本計画案策定にあたって、各団体の代表の方に参加してもらっており、区民の意見が反映された計画になったと考えている。

（会長）

今後、事業者選定の審査委員会に区民等をメンバーに入れるなどの方法も考えられる。

（事務局）

事業者選定委員会の具体的なメンバーについては、まだ検討していないが、事業者を選ぶということになると専門的な知識も求められるため、選定委員会のメンバーは慎重に考えていきたい。

（会長）

５１ページの「8.今後の課題」にある事業方式の精査は誰が行っていくのか。

(事務局)

区が行う想定である。

(L 委員)

事業者の選定の方法等は、今後も区が主体になって考えていくが、会長からご提案頂いたような、住民参加型、住民提案型の方法が可能であれば検討したい。住民参加型の事業の進め方については維持していきたいと思うし、そういうご意見を踏まえながら事業を進めたい。

(会長)

そのあたりも含めて、平成 30 年度のスケジュールの「事業方式の精査」が行われるのだと思う。ご指摘の通り、事業者選定は、専門的な内容も含まれるため、必ずしも住民が入ればよいというものでもない。

(I 委員)

事業を公募してから施設が完成するまでの間に、区民の意見を聞くことは重要と思うが、様々な制約もあり、住民の意見をそのまま受け入れることもできないと思う。

重要なのは、施設が完成し、供用を開始する段階で、どのような体制で運営されるかである。基本計画の中には、「指定管理者」という言葉が入っているが、地域を巻き込んだ運営協議会などの設置が地域重要である。要望としては、供用開始後に、地域、区民等の意向が反映できる仕組みを考えて欲しい。

(会長)

難しい面もあるとは思いますが検討して欲しい。

(事務局)

現段階で明確な回答は難しいが、地域の皆様が入って運営する協議会などの可能性について検討したいと思う。

(M 委員)

23、24 ページの図について、緑色の濃淡で人口密度の多寡を表現しているが、緑被率の度合いにも見えるため、修正した方がよい。また、鉄道駅、路線などが非常に見にくいため、修正して欲しい。

(A 委員)

図表番号の設定の仕方を統一した方がよい。

用語集に掲載されている用語が本文中に出てきた時に、用語が参照しやすいように整理して欲しい。

(H 委員)

配置計画の A 案から E 案が掲載されているが、本検討委員会としてはこの案がよい、というものを決めた方がよいのではないかと。使いづらい案も含まれているため、望ましい案を示した方がよいと考える。

(会長)

検討委員会では、配置案を決めることまでは考えていない。掲載している 5 案は、検討のたたき台であることを明記した方がよい。

(事務局)

将来完成する施設は A 案から E 案の中から選ばれるものではない。本施設の配置計画は、掲載している A 案から E 案に縛られるものではない、ということを明確に示す。

(H 委員)

本施設を避難所とする場合、照明は必ず必要になる。照明設備は非常時にも活用できるという告知が出来るのではないかな。

(C 委員)

仮設トイレの設置や井戸の設置を考えて欲しい。

(事務局)

地元の町会からも、井戸等の要望はいただいている。災害時用のトイレもあわせて検討する。

(会長)

今回が検討委員会としては最後になるため各委員から一言ずつ頂きたい。

(B 委員)

町会としては、防災に関心がある。管理棟の中にもミニ備蓄倉庫を設置するという計画になっているが、何かあった場合には周辺から住民が殺到することも起こり得るため、防災については是非考えて欲しいと思っている。

A 案から E 案まで検討されている中で、それぞれ色々なメリット・デメリットがあると思う。多目的な施設、という視点では、大きなイベント等の開催も想定されていると思うが、観客席の設置までは不要ではないかな。

(会長)

本施設が避難場所に指定されていなくても、人は広い空地に集まってしまうため、考慮して欲しい。観客席については、競技をする人のことを第一に考えてスペースを活用するという整理になっている。

(C 委員)

町会としては、騒音と照明を一番気にしている。その問題が解決されれば、是非野外スポーツ施設を整備して頂きたい。

(会長)

町会の立場としては、夜間照明の設置はやめて欲しいということか。

(C 委員)

やめて欲しい、というものではない。反対する住民は当然いるが、納得してもらえるように説明して
いていく必要がある。

(D 委員)

体育協会としては早期の野外スポーツ施設の整備を望んでいる。

(会長)

基本計画にも記載している DBO などは事業スケジュールを早くする一つの方法である。

(E 委員)

皆様の意見を聞き入れて、色々な活用が出来そうな施設になりそうだと感じている。過去の委員会でも
も取り上げたランニングスペースを可能であれば検討して欲しい。

(会長)

引き続き検討してほしい。

(F 委員)

本施設を使用したいと考えている利用者団体の意見と近隣の方との意見が調和できる施設を整備し
て欲しい。

(G 委員)

豊島区には子供たちが競技を行う場が少ない中で、この施設が子供たちにとってよりよいスペースに
なることを祈っている。少年野球、少年サッカーなどが有意義に使えるよう、料金には配慮してもらい
たい。

(会長)

難しい部分があるかもしれないが、これまでの原則通りになるのでは、と考えている。

(H 委員)

個人的には、直営で運営して欲しいと思っている。また、例えば小中学校の放課後対策として、午後
2 時から 5 時までは無料で使えるような仕組みを検討してもらいたい。

(会長)

昼間の使用料を安くする分、夜間の使用料を高くするなど、そのような運用が考えられる。

(I 委員)

これから事業を発注する中で、本計画を基本としつつも事業者の提案を弾力的に受け入れられる仕組みを考えて欲しい。区が民間提案を積極的に受け入れられる発注方法を考えて欲しい。

遅くともオリンピックイヤーには現場が動き出しているようなイメージで事業が進むことを期待している。

供用開始後の運営に当たって地域・団体の声が入るような仕組みの構築を検討して欲しい。

(会長)

事業化を早めに進められるよう工夫してもらいたい。

(J 委員)

本施設は、供用開始が5年後くらいになるので、近い将来を見据えた計画を考えて欲しい。豊島区の区立学校は校庭開放などに積極的に取り組んでおり、他の地域より恵まれている。野外スポーツ施設についても、昼間は開放や料金設定を安くするなど、空き時間をなくし、幅広く使ってもらえるように運営して欲しい。

NPO 法人や大学生をうまく活用したりして、多目的に使える施設を計画して欲しい。

災害の非難時に、ペットがいると衛生面から難しいところもあるが、実際に災害が起きた場合に追いやられてしまうと行き場がなくなってしまう。うまく調和する策を検討してもらいたい。

(会長)

別の自治体で似たような検討をしたことがある。同自治体には2箇所の防災拠点があり、1つを子ども中心の防災施設、もう1つを大人中心の防災施設にしようかと提案したことがある。例えば、ペットを保有している方は、こっちの防災施設、それ以外の方はこっちの防災施設、といった分けをするような方法もあるのではないかと。

(K 委員)

本施設は「多目的」といいながら、球技や団体スポーツといった部分が重視されている。また男性中心のスポーツ利用がメインであり、女の子を持つファミリー世帯が利用しづらい施設にならないか懸念している。

また、球技利用ということで、今後はボールが飛んできてガラスを割ったなど、運営面でのリスクにも配慮しなければならないと思う。事業者にはそういったところも踏まえて計画をしてもらいたい。

特定のリピーターに限らず、幅広く利用できる施設になることを願っている。

(会長)

事業者に提案をしてもらう際に、区が求めた要件以外の使い方ができる部分の提案を高く評価するなどして、「多目的」という要素を実現して欲しい。

(M 委員)

本委員会で頂いた意見をできる限り反映していきたいと考えている。

(L 委員)

「2025 年問題」と言われているが、団塊世代が高齢化する時代がくると、スポーツ施設やスポーツイベントが衰退することが危惧されている。

こうした現状を踏まえて、本施設が長く愛される施設になるように、次世代を担う子供たちに施設を愛してもらうための仕組みを貫かないといけないと思っている。

将来のスポーツの担い手の核となる施設になることを期待している。

(A 委員)

スポーツ施設の特性だと思うが、委員会では「利用」に関する意見が多かった。緑地、オープンスペースに関する議論の場で重視されるのは、「存在効果」と「利用効果」であり、最近では、「媒介効果」という言葉も挙がる。

「利用効果」を高めるために、どういう施設にすべきかという議論は出来たと思う。地域の方、この施設を利用する頻度が低い方、普段スポーツをしていない方にとっても価値が高まるという意味で、「存在効果」の面の検討を今後深めていけるとよい。

(会長)

本検討委員会での議論をスポーツの重要性を考えるきっかけにして欲しいと思っている。湯浅副会長が言われた通り、地域にスポーツ施設があることで、地域の価値が向上することを目指して欲しい。

本敷地に、収益施設ではなく、スポーツ施設の整備を選んだのは、その方が地域にとって価値がある、という判断によるものだと思う。いずれは豊島区も人口が減少していく可能性があるが、この地区はこのスポーツ施設があるから価値が高く、住みたい場所になっているのが理想である。また、そういう施設がある豊島区に住みたい、という展開になればより望ましい。本施設に限らない話だが、今後は施設の価値向上に努めることが重要であり、それを事業者選定の際の考え方において欲しい。

(3) 今後のスケジュールについて

＜事務局より資料 3 に基づき今後のスケジュールについて説明＞

(事務局)

基本計画案住民説明会は、4 月 24 日と 4 月 26 日の 2 回開催する。

(会長)

旧第十中学校跡地活用等基本計画検討委員会を以上で終了する。

(閉会)